

令和5年度 後期 自己評価書

篠山小中学校組合立篠山小中学校

【評価基準】 A：目標を達成 B：8割以上達成 C：6割以上達成 D：6割未満

1 特色ある学校づくり

評価項目	評価指標及び目標値	評価	学校による考察(◇) 改善方策(◆)	評価資料	個別評価	肯定率 4+3	アンケート結果(%)			
							4	3	2	1
小中一貫教育を目指した教育の推進	組合立学校や小中合同校舎の特色を生かした、小中一貫を目指した教育活動を推進している。 目標値：教職員、保護者、地域の90%以上が肯定	A	◇小中合同校舎の特性を生かし、学校行事や集会、全校給食などを小中間で共通理解しながら取り組んできた。また、研修面では、11月に行われる中国・四国地区へき地教育研究大会に向けて9年間を見通した研究が進んでいる。これらの取組が日常的になっており、高評価につながっている。 ◆引き続き、全教職員が連携を図りながら合同の活動を行い、保護者や地域住民に周知していく。研究会では、保護者や地域住民の協力を仰ぎながら、3年間の研究の成果を最大限に披露する。	教職員1	A	100	82	18	0	0
		A	◇前期に引き続き、小中合同で運動会や文化祭などの学校行事を、保護者や地域住民と一緒に開催することができた。また、2学期は、中国・四国地区へき地教育研究大会の発表もあり、総合的な学習の時間や篠南プロジェクトなどで小中合同の活動を多く取り入れたことも高評価につながっている。 ◆これまでの研究で、小中合同の活動は児童生徒の成長に大きく関係していることが検証できた。今後も、合同校舎の特色を生かし、まず小中の教職員が連携を図りながら児童生徒が交流することで互いに成長できる教育活動を推進していく。	保護者1	A	100	60	40	0	0
	A	◇総合的な学習の時間や篠南プロジェクトを始めとする「ふるさと学習」の推進により、郷土愛の育成に取り組んできた。また、4月の篠山登山や6月の防災参観日を保護者や地域住民と一緒に実施できたことにより、地域ぐるみで篠南に愛着を持つ児童生徒の育成に努めてきた。 ◆これまで同様、総合的な学習の時間や篠南プロジェクトを核とし、地域人材や地域教材を積極的に活用して「ふるさと学習」を推進していく。また、年間指導計画に基づき、道徳科や特別活動で郷土愛の育成に積極的に取り組んでいく。	地域1	A	100	75	25	0	0	
	A	◇総合的な学習の時間や道徳科、篠南プロジェクトなど、あらゆる学習で「ふるさと学習」を推進してきた。また、地域コーディネーターの働きかけにより人材バンクの活用ができた。多くの地域住民がゲストティーチャーとして学習活動に加わり、郷土愛の育成に努めることができています。 ◆引き続き、教科全般で「ふるさと学習」を推進し、郷土愛の育成に努める。また、地域コーディネーターを核とし、ボランティアスタッフの積極的な活用に努める。	教職員1	A	100	82	18	0	0	
ふるさと教育	地域の教育力を生かした「ふるさと学習」を推進し、郷土愛の育成に努めている。 目標値：教職員、児童生徒、保護者、地域の90%以上が肯定	A	◇総合的な学習の時間や篠南プロジェクトを始めとする「ふるさと学習」の推進により、郷土愛の育成に取り組んできた。また、4月の篠山登山や6月の防災参観日を保護者や地域住民と一緒に実施できたことにより、地域ぐるみで篠南に愛着を持つ児童生徒の育成に努めてきた。 ◆これまで同様、総合的な学習の時間や篠南プロジェクトを核とし、地域人材や地域教材を積極的に活用して「ふるさと学習」を推進していく。また、年間指導計画に基づき、道徳科や特別活動で郷土愛の育成に積極的に取り組んでいく。	児童生徒7	A	100	47	53	0	0
		A	◇総合的な学習の時間や道徳科、篠南プロジェクトなど、あらゆる学習で「ふるさと学習」を推進してきた。また、地域コーディネーターの働きかけにより人材バンクの活用ができた。多くの地域住民がゲストティーチャーとして学習活動に加わり、郷土愛の育成に努めることができています。 ◆引き続き、教科全般で「ふるさと学習」を推進し、郷土愛の育成に努める。また、地域コーディネーターを核とし、ボランティアスタッフの積極的な活用に努める。	保護者2	A	100	43	57	0	0
	A	◇定期的なホームページの更新や、学校・学級だよりの発行により、保護者や地域住民に学校の取組や児童生徒の様子を発信してきた。特にホームページは毎日100件を超える閲覧があり、興味を持っていただいていることが分かる。 ◆引き続き、ホームページの更新や学校からの各種たよりを定期的に発行し、積極的に学校や児童生徒の様子を発信していく。ホームページについては、決まった教職員のみが更新しているので、誰でも更新できるように操作方法を周知していく。	地域2	A	100	75	25	0	0	
	A	◇ホームページについては、毎日ではなかったが随時更新できている。各種たよりに関しては、各主任が定期的に発行し、学校からの情報を発信するなど、家庭への働きかけができています。しかし、一部の保護者からは、「ホームページを楽しみにしているのに、毎日更新してほしい」との要望があり、日々の更新が求められている。 ◆前期同様、各種たよりを定期的に発行し、学校や児童生徒の様子を発信していく。また、ホームページについては、更新方法を全教職員に周知することができていなかったため、誰もが更新できるように操作方法を周知していく。	教職員2	A	100	100	0	0	0	
家庭・地域との連携	各種たよりのホームページ等を通して、学校の取組や生徒の様子を積極的に情報発信している。 目標値：教職員、保護者、地域住民の90%以上が肯定	A	◇定期的なホームページの更新や、学校・学級だよりの発行により、保護者や地域住民に学校の取組や児童生徒の様子を発信してきた。特にホームページは毎日100件を超える閲覧があり、興味を持っていただいていることが分かる。 ◆引き続き、ホームページの更新や学校からの各種たよりを定期的に発行し、積極的に学校や児童生徒の様子を発信していく。ホームページについては、決まった教職員のみが更新しているので、誰でも更新できるように操作方法を周知していく。	児童生徒7	A	93	60	33	7	0
		A	◇ホームページについては、毎日ではなかったが随時更新できている。各種たよりに関しては、各主任が定期的に発行し、学校からの情報を発信するなど、家庭への働きかけができています。しかし、一部の保護者からは、「ホームページを楽しみにしているのに、毎日更新してほしい」との要望があり、日々の更新が求められている。 ◆前期同様、各種たよりを定期的に発行し、学校や児童生徒の様子を発信していく。また、ホームページについては、更新方法を全教職員に周知することができていなかったため、誰もが更新できるように操作方法を周知していく。	保護者2	A	100	47	53	0	0
	A	◇ホームページについては、毎日ではなかったが随時更新できている。各種たよりに関しては、各主任が定期的に発行し、学校からの情報を発信するなど、家庭への働きかけができています。しかし、一部の保護者からは、「ホームページを楽しみにしているのに、毎日更新してほしい」との要望があり、日々の更新が求められている。 ◆前期同様、各種たよりを定期的に発行し、学校や児童生徒の様子を発信していく。また、ホームページについては、更新方法を全教職員に周知することができていなかったため、誰もが更新できるように操作方法を周知していく。	地域2	A	100	70	30	0	0	
	A	◇ホームページについては、毎日ではなかったが随時更新できている。各種たよりに関しては、各主任が定期的に発行し、学校からの情報を発信するなど、家庭への働きかけができています。しかし、一部の保護者からは、「ホームページを楽しみにしているのに、毎日更新してほしい」との要望があり、日々の更新が求められている。 ◆前期同様、各種たよりを定期的に発行し、学校や児童生徒の様子を発信していく。また、ホームページについては、更新方法を全教職員に周知することができていなかったため、誰もが更新できるように操作方法を周知していく。	教職員3	A	100	91	9	0	0	
学校運営協議会委員の意見	・小中一貫を目指した教育活動というよりも、合同校舎や小中合同の活動が展開できるという特性を生かした教育を継続してほしい。小中合同の集会活動や、教職員の乗り入れ授業なども充実させてほしい。 ・篠南プロジェクトは児童生徒が主体的・積極的に取り組んでいる。しかし、児童生徒のみが行うのには限界があるのではないかと。もっと地域住民に助けを求めたり、活用したりしてほしい。また、学校運営協議会委員の中には、篠南プロジェクトを知らない者もいる。地域住民にもぜひ広めてほしい。	学校の対応	・本校の特色である小中合同校舎ならではの教育や、小中合同学習、乗り入れ授業等を今後も継続して実施していく。また、保護者や地域住民との連携を更に強化して「ふるさと学習」等を充実させることで、郷土愛の育成に努める。 ・ホームページの閲覧数が多いことから、定期的に更新するとともに、学校だよりでもタイムリーな話題、篠南プロジェクトの目的や活動内容、保護者・地域住民と連携して取り組むことを掲載していく。 ・11月に行われる中国・四国地区へき地教育研究大会では、児童生徒が生き生きと学習に取り組む様子や、3年間の研究の成果を自信を持って公開したい。	保護者15	A	100	60	40	0	0
			・2学期は中国・四国地区へき地教育研究大会があり、本校の研究やその成果を公開することができた。来校された方からは、児童生徒が育っていることや地域に根差した教育が推進されていることを評価していただいた。3年間の研究は今年度で終了となるが、今まで取り組んできたことを継続するとともに、更に深化できるよう研修を積み重ねていく。 ・今年度から地域コーディネーターが学校運営に加わり、地域と学校の橋渡しを積極的に行っていただいた。そのため、地域の方々をゲストティーチャーとして招へいすることが以前よりも可能になり、「ふるさと学習」を充実させることができた。今後も地域コーディネーターとの連携を強化しながら、「地域とともにある学校」の推進に努める。	地域7	A	100	63	37	0	0
	・中国・四国地区へき地研究大会では、篠山小中学校の良さを来校者に伝えることができ盛況に終わってよかった。引き続き、小中合同校舎の特色を生かした教育や「ふるさと学習」に取り組んでほしい。特に、地域の伝統芸能である「花取り踊り」や「五鹿」は、児童生徒の減少で継続が難しくなっている。ぜひ、学校で継続してほしい。 ・ホームページを見ると、学校はよく更新している。できる範囲で取り組んでほしい。	教職員3	A	100	64	36	0	0		
	・中国・四国地区へき地研究大会では、篠山小中学校の良さを来校者に伝えることができ盛況に終わってよかった。引き続き、小中合同校舎の特色を生かした教育や「ふるさと学習」に取り組んでほしい。特に、地域の伝統芸能である「花取り踊り」や「五鹿」は、児童生徒の減少で継続が難しくなっている。ぜひ、学校で継続してほしい。 ・ホームページを見ると、学校はよく更新している。できる範囲で取り組んでほしい。	保護者15	A	93	27	66	7	0		
・中国・四国地区へき地研究大会では、篠山小中学校の良さを来校者に伝えることができ盛況に終わってよかった。引き続き、小中合同校舎の特色を生かした教育や「ふるさと学習」に取り組んでほしい。特に、地域の伝統芸能である「花取り踊り」や「五鹿」は、児童生徒の減少で継続が難しくなっている。ぜひ、学校で継続してほしい。 ・ホームページを見ると、学校はよく更新している。できる範囲で取り組んでほしい。	地域7	A	100	80	20	0	0			

2 確かな学力の定着と向上

基礎学力の定着	児童生徒は、「読み・書き・計算」の基礎的・基本的な知識や技能が身に付いている。	A	◇児童生徒、保護者、教職員共に肯定率が高い。各教科での丁寧な取組に加え、EILSによる小テストや宿題配信、学習委員会の活動「ドリルパーク祭り」に取り組ませたことにより少しずつ基礎学力の定着が図られた。しかし、2の評価をしている教職員や保護者もあり、テストの結果等から子どもの学力を心配していることが伺える。 ◆今までの取組がより効果的なものとなるよう、学習の振り返りを継続的に行う。また、保護者の不安感を解消するために、児童生徒一人一人の困り感に応じて、休み時間や「ささなじゅく」などの補充の時間を利用して、繰り返し粘り強く、基礎学力定着に向けて指導していく。また、保護者に対しては、懇談会のみでなく日頃から学習面においても連絡を取り合うよう努める。	教職員4	A	91	0	91	9	0
	目標値：教職員、児童生徒、保護者の85%以上が肯定	B	◇保護者や児童生徒は前期と比べるとあまり変化はないが、教職員の肯定率を見ると低下している。これは、全国学力・学習状況調査や県診断テスト等の結果により、児童生徒の課題が明らかになったことが原因している。結果を見ると、国や県の平均よりも高いが児童生徒の課題克服に向けて教職員が危機意識を持ったためであると考えられる。 ◆各種調査で明らかになった課題を再度見直し、学習の仕方について個別に指導していく。全体では、朝ドリルや家庭学習など基礎学力の定着に向けて全職員で検討し、実践していく。	教職員4	C	73	9	64	27	0
授業改善 ICTの活用	教師は、ICTを効果的に使い、生徒が自分の考えを分かりやすく表現した入り、物事を論理的に考えたりすることができるような授業を実践している。	A	◇各教科でICT機器を効果的に活用した授業改善に努めた結果、児童生徒、教職員共にA評価となっている。児童生徒はコンピュータを使った授業を楽しく効果的だと評価している一方で、ICT機器の効果的な活用方法に不安を感じている教職員もいる。 ◆2学期は中国・四国へき地教育研究大会があり、ICT機器の使用は不可欠であるため、引き続きchromebookに備わっている機能やアプリを効果的に活用していく。また、児童生徒には、授業中にICTを効果的に活用できているかの学習アンケートを実施し、検証を行う。教職員については、今後もICT研修を積極的にに行い、自信のなさを取り除いていく。	教職員5	A	100	27	73	0	0
	目標値：教職員、児童生徒の85%以上が肯定	A	◇児童生徒、教職員共に効果的なICT機器の活用に努めた結果、A評価となっている。特に、他校とのオンライン学習やcanvaを用いたスライド作成などに力を入れ、児童生徒は楽しみながらコンピュータを使った学習に取り組んでいる。 ◆引き続きchromebookに備わっている機能やアプリを効果的に活用していく。教職員のICT活用力は向上しているが、町ICT支援員の協力を仰ぎながら引き続き研修を行う。また、表現力や論理的に考える力の向上に対して、オンライン学習や積極的なICT機器の活用を継続していく。	児童生徒3	A	100	50	50	0	0
家庭学習の定着	児童生徒は、家庭学習の習慣が身に付いている。(低学年20分、高学年60分、中学生は90分以上)	B	◇教職員、児童生徒はB評価だが、保護者は昨年度と同様にC評価となっている。休日明けに宿題やその直しが提出できにくい児童生徒がいることが影響していると思われる。評価の低い保護者は、児童生徒が家庭で学習している姿を見かけないのではないかとと思われる。 ◆家庭学習の習慣が身に付いていない児童生徒に対しては個別に対応する。夏季休業中は、朝の体力づくりや部活動等で登校する際に進捗状況を確認し、その都度声掛けを行う。また、2学期からは、見通しを持って学習できるよう宿題の出し方を工夫するなど、個別に支援していく。さらに9月のPTA総会で、学習習慣についての話題を保護者に提案したり、昨年度から取り組んでいるノーテレビ・ノーディスプレイの取組を確認していただいたりするなど、保護者との連携を強化して家庭学習の習慣化を図る。	教職員6	B	82	0	82	18	0
	目標値：教職員、児童生徒、保護者の85%以上が肯定	B	◇保護者の肯定率は1段階上がっていることから、家庭学習の習慣は身に付いてきていることが伺える。一方、宿題の未提出が影響しているため、教職員の評価が低下している。宿題の適量を再考する必要がある。 ◆自主的に学習する態度の育成に重点を置き、家庭での学習の在り方について再度指導を行う。少人数だからこそ対応できるという認識の下、教職員間で宿題の量について検討し、適切な量を配信する。	児童生徒14	B	80	27	53	20	0
読書活動の習慣化	児童生徒は、読書の習慣が身に付いている。	C	◇児童生徒、保護者共にC評価となっているが、今まであまり本に親しめなかった児童生徒が本を借りるなど、昨年度より改善されている。みきゃん通帳への登録により視覚化できたことや、学習委員会を中心としたイベントを実施できたことが要因と思われる。 ◆今後も学習委員会を中心に、本に興味を持てるようなイベントを企画する。また、親子読書の日を設定し、親子で本に親しめる時間を確保していただくなど、保護者と連携して読書習慣を身に付けさせたい。	保護者5	C	67	20	47	33	0
	目標値：教職員、児童生徒、保護者の85%以上が肯定	C	◇前期と変わらず児童生徒、保護者共にC評価となっている。2学期は親子読書、ファミリー対抗ブックウォークなど実施し、家庭に向けて読書啓発を行った。親子読書は全家庭からコメントをいただいたり、9名の児童生徒がブックウォークを達成したりしたが、期間限定であったために保護者は家庭で読書している児童生徒を見ていないことも考えられる。 ◆引き続き、学習委員会を中心に本に興味を持てるようなイベントを企画する。しかし、家庭生活に読書時間をどう組み込めばよいか難しいため、教職員でより良い方策を検討したり、保護者から改善案を募ったりする。	児童生徒5	C	75	44	31	25	0
学校運営協議会委員の意見	・児童生徒は、テスト前には勉強しているが、日常的には家庭で学習できていないようである。学級担任や教科担任を中心に宿題を出しているが、家庭でゆっくりと過ごしたいためか、学校の休み時間で済ませている生徒もいたようだ。昔は、いわゆる「こわい先生」がいて、宿題を提出しなかったらひどくしかられたが、今はそのような時代ではない。宿題の分量を考え、教職員が適切な量を与えるようにしてはどうか。	学校の対応	<ul style="list-style-type: none"> ・全国学力・学習状況調査結果を分析し個に応じた対策を考えたり、愛媛県が開発したEILSシステムを使ってICT機器を効果的に活用したりして、学力の向上や「主体的・対話的で深い学び」の実現を引き続き目指していく。 ・家庭学習の習慣化については、B評価になっていることから、まだまだ課題が残る。児童生徒への指導に加えて、宿題の適量化、保護者との連携の強化が必要である。マスターウイーク中のノーテレビ、ノーディスプレイの日を中心に家庭学習の習慣化を図る。 ・児童生徒は、朝読書の時間を活用して読書に親しんでいるが、家庭での読書については習慣化できていない傾向にある。読書の必要性や意義について知らせるとともに、家庭における親子読書や、読書週間におけるイベントなどを企画し、読書活動の習慣化を図る。 	保護者5	C	60	0	60	40	0
	・家庭読書についても時間を設定する必要があるのではないかと。読書は基礎基本の定着や読解力の向上にもつながる。読書の意義も伝えながら、習慣化に向けて継続的に取り組んでほしい。 ・授業を参観すると、児童生徒の発言が多く指導者とのコミュニケーションも取れている。学習のきまりを再度確認しながら日々実践してほしい。			児童生徒5	C	47	20	27	53	0

3 豊かな心と健やかな体を育てる教育の推進

道徳教育の充実	道徳科や特別活動等の授業を通して、自他を思いやる児童生徒が育っている。	A	◇教職員、児童生徒、保護者共に評価が高い。道徳科や特別活動において、他の生徒の考えに触れたり、自分自身を見直したりする活動を取り入れていることが、児童生徒の心の成長につながっている。また、地域住民との関わりや小中合同の活動を増やしたことにより、自他を思いやる言動が見られるようになってきた。 ◆引き続き、道徳科や特別活動等で自己を見つめ直す活動を取り入れ、児童生徒の心の成長を促す教育を実践する。また、日常的に児童生徒の言動に気を配り、その都度指導や支援を行いながら自他を思いやる心を育てていきたい。	教職員7	A	100	64	36	0	0
	目標値：教職員、児童生徒、保護者の85%以上が肯定	A	◇教職員、児童生徒、保護者共に評価が高い。道徳科や特別活動において、他の考えに触れたり、自分自身を見つめ直す活動を取り入れているが、自他を思いやる児童生徒が育っているのか見づらい。 ◆引き続き、道徳科や特別活動等で自己を見つめ直す活動を取り入れるなど、児童生徒の心の成長を促す教育を実践する。また全教職員が自他を思いやる児童生徒像を共通認識し、日常的に児童生徒の言動に気を配り、その都度指導や支援を行いながら自他を思いやる心を育てていく。	教職員7	A	100	36	64	0	0
挨拶・返事運動の推進	気持ちのよい挨拶・返事ができる児童生徒が育っている。	A	◇全体的に評価は高い。今年度の合言葉として、「さわやかな挨拶」を全教職員で取り組んできたことが結果に表れている。しかし、地域がB評価になっているのは、決まった場所やシチュエーションでは挨拶ができるが、それ以外はできていないため、地域の評価がBになっていると思われる。また、返事については少しずつ改善されているが、日常的にはなっておらず、まだ十分とは言えない。 ◆教職員間で今年度の合言葉を示しながら共通理解を図り、根気よく指導を継続していく。返事についても、人の話を聞くことの大切さと合わせ、好感の持てる返事ができるよう全教職員で継続して指導に当たる。	教職員8	A	100	0	100	0	0
	目標値：教職員、児童生徒、保護者、地域住民の90%以上が肯定	A	◇地域の評価が高くなっている。2学期は地域内外の方々に来校していただく機会が多く、児童生徒が来校者に対して挨拶を意識したことが結果に表れたと考える。しかし、朝の挨拶の声が小さい日があったり、いつもと違う場面での挨拶に反応できなかったりすることがあったために、教職員、児童生徒共にB評価になった。 ◆引き続き、機会を逃さず挨拶指導を継続していく。返事についてもまだまだ十分とは言えないため、生活の中で自然な返事が身に付くよう教職員で共通理解を図りながら、根気強く指導を継続していく。	児童生徒9	A	100	64	36	0	0
後始末運動の推進	児童生徒は、使用した物をきちんと片付ける習慣が身に付いている。	C	◇児童生徒は高評価であるが、教職員と保護者の評価が低く意識にずれがある。特に5割以上の保護者が、片付けの習慣が身に付いていないと回答している。児童生徒は大人から指摘されたことはできるが、自ら進んで後始末をする習慣が身に付いていないと思われる。 ◆9月のPTA総会で、どのような場面において片付けができないのかを保護者に聞き取り、課題を明らかにする。また、片付けの重要性について触れ、家庭と連携した指導を継続して行う。明らかになった課題は、生活委員会の活動と関連させながら改善へとつなげる。	教職員9	C	73	0	73	27	0
	目標値：教職員、児童生徒、保護者の85%以上が肯定	C	◇前期と同じく、児童生徒は高評価であるが、教職員と保護者の評価が低く意識にずれがある。生活委員会の活動で家庭の靴並べチェックを3週間行ったが、保護者の評価が向上していないことから、家庭での後片付けが定着していないことが考えられる。早急に別の方策を講じる必要がある。 ◆文化祭やイベント準備を行った後に、使用したものが定位置に戻っていないことが数多く見られた。学校の物を使用しているという意識を持たせるように具体的な指示を出し、学校生活のあらゆる場面において声掛けや指導を行う。	児童生徒12	A	94	46	48	6	0
健康な生活習慣の確立	児童生徒は、早寝・早起き・朝ごはんの習慣が身に付いている。	A	◇児童生徒、保護者共に評価はAであるが、保護者のアンケート結果には、ばらつきが見られる。13%の保護者が2を選択しているにもかかわらず、児童生徒全員が4を選んでいることから、児童生徒と保護者に意識のずれが生じている。マスターウィークの保護者の言葉や児童生徒の日常会話から、実際は、早寝・早起きができていないと思われる。 ◆今年度もアンケートを実施し、できない原因や改善方法を児童生徒と保護者が話し合う機会を設ける取組を継続する。また、マスターウィーク調査結果を分析・考察し、児童生徒への指導にフィードバックさせる取組も継続して行う。早寝の習慣は、家庭の協力が必要であるため、「保健だより」を通して、課題や改善の方法を発信し、家庭と連携した取組を行う。	児童生徒15	A	100	100	0	0	0
	目標値：教職員、児童生徒、保護者の85%以上が肯定	A	◇児童生徒、保護者共に、達成率は8割以上であることから、児童生徒と保護者に意識のずれが以前ほど見られなくなっている。これは、家庭で規則正しい生活習慣について話し合ったり、指導していただいたりしていることが起因している。 ◆引き続き、「保健だより」を通じて実態、原因、改善点等、自分自身を見つめ直す場を提供し、改善方法を児童生徒と保護者が話し合う機会を設ける。また、マスターウィーク調査結果を分析・考察し、児童生徒への指導にフィードバックさせるなど家庭と連携した取組を継続して行う。	保護者13	A	87	27	60	13	0
体力づくりの推進	体育の授業や部活動等により、児童生徒の体力・運動能力が向上している。	A	◇昨年度の体力テストの結果と比較すると、児童生徒全員が昨年度を上回っているか、ほぼ同じ記録である。体を動かすことに抵抗を感じている児童生徒はおらず、放課後の水泳練習や部活動に意欲的に取り組んでいる。昨年度から心と体のバランスを意識した取組を行ってきたことが、より良い結果をもたらしている。 ◆引き続き、体育学習で様々な運動に親しませながら運動能力の向上を図る。また、目的意識を持つことや運動の意義などを工夫して知らせ、放課後の陸上練習や部活動にも積極的に参加させる。	児童生徒15	A	93	40	53	7	0
	目標値：教職員、児童生徒、保護者の85%以上が肯定	A	◇児童生徒は体を動かすことに抵抗はなく、体育学習に意欲的に取り組んでいる。また、放課後の陸上練習や部活動にも目標を持って取り組み、記録の向上や各種大会での活躍が見られた。 ◆体育科では、個に応じた課題目標を設定し、達成感を感じられるよう指導を工夫する。また、3学期に予定している長距離運動については、自分の健康や他の多くの運動に良い効果があることを伝え、意欲的に取り組めるようするなど、心と体のバランスを意識した取組を行う。	保護者13	B	80	33	47	20	0
学校運営協議会委員の意見	・昔と比べると、今の子供たちは時間がなく忙しそう。今は気が利かない子供たちが増えてきているのではないかと。以前は、公用車のバスを使用した場合、必ず掃き掃除を行うなど、「来たときよりも美しく」の精神が身に付いていた。 ・課題をPTAに投げ掛けるという点はよい試みである。ぜひ指導に生かしてほしい。	学校の対応	・後始末運動の推進については、PTA総会で話し合った結果、自分の履物をそろえることに重点を置いて取り組むことに決まった。今後、生活委員会で具体案を計画し実践していく。保護者と教職員の協力体制がまた一つ確立されたので、積極的に取り組めるようにしたい。 ・健康な生活習慣の確立については、マスターウィークの結果を保健だよりで周知するなど、継続して保護者との連携を図りながら取り組んでいく。 ・挨拶運動については、昨年と比べると大きな声が出ており、返事についても少しずつ改善が見られている。継続した指導の効果であると感じている。よい習慣が身に付きつつあるので、今後も継続して声掛けや指導を重ねていく。	教職員10	A	100	27	73	0	0
	・玄関の靴が揃っていないと気持ち悪く感じるが、保護者はそれを感じていないのではないかと。しつけの問題になるかもしれないが、靴を揃えるのは当たり前なことだと徹底してほしい。		・健康な生活習慣の確立については、マスターウィークの結果を保護者にフィードバックするなど家庭と連携した取組が確立し始めている。今後も児童生徒の変容や保護者の意見等を記載した保健だよりを発行していく。 ・後始末運動については、PAT総会で話し合ったにも関わらず改善が見られない結果となった。児童生徒はできていると回答していることから、保護者アンケートに「玄関で靴を並べているか」と具体的な質問になっていなかったことも考えられる。来年度はアンケートをより具体的に必要がある。また、運営協議会で話し合ったことを再度保護者に知らせ、後始末運動の推進を図る。	児童生徒10	A	93	73	20	7	0
				保護者12	A	93	53	40	7	0

4 健全育成の推進

規範意識の醸成	「決まり」や「マナー」を遵守し、自立心と規範意識のある児童生徒に育っている。	A	◇児童生徒は規範意識が身に付いており、「きまり」や「マナー」を守りながら生活できているため、全体的に高評価を得た。 ◆引き続き、道徳科を中心に善悪の判断がきちんとできる児童生徒の育成を目指す。小中合同の学習や集会で模範的な児童生徒を称賞したり、できていない行動について指導したりするなど、あらゆる機会を捉えて規範意識の高揚に努める。	教職員11	A	91	9	82	9	0
	目標値：教職員、児童生徒の90%以上が肯定	A	◇「決まり」や「マナー」を正しく理解している児童生徒がほとんどであり、規範意識を持って生活できているため、保護者や地域住民からも高評価を得ている。自立心については、2学期は本格的に篠南プロジェクトが始動し、児童生徒が来校される人をもてなしたいという思いを強くして活動に臨んだ結果が心の成長として見られた。 ◆規範意識の育成については、時と場を自覚させ、「決まり」や「マナー」がなぜ大切なのか理由とともに考えさせるなど継続して指導に当たる。また、篠南プロジェクトをはじめ、様々な体験活動の取組が今後の活動に生かせるよう教職員が手を掛けすぎず見守っていく。また、それらの活動をホームページ等で紹介することにより、保護者や地域へも協力を求める。	児童生徒11	A	100	66	34	0	0
個に応じた指導の充実	教師は、生徒一人一人の教育的なニーズに応じ、生活や学習の指導・支援に努めている。	A	◇小規模校の特性を生かし、全教職員が一人一人にきめ細かな指導を日常的に行っていることが高評価につながっている。また、定期的に教育相談を実施し、児童生徒の困り感に早期に対応できたことも要因である。 ◆今後も全教職員で児童生徒一人一人を見守りながらその場その場で適切な指導や支援を行う。また、些細なことであっても職員会議や研修会で情報交換を確実にし、同一歩調での指導を心掛ける。	保護者8	A	94	27	67	6	0
	目標値：教職員の90%以上が肯定	A	◇小規模校の特性を生かし、個に応じたきめ細かな指導が日頃からできていることが高評価につながっている。 ◆今後も全教職員で児童生徒一人一人を見守りながら、適切な指導や支援を行う。また、日々の児童生徒の些細なことについても情報交換を積極的に行い、全教職員が共通理解を図りながら指導に当たる。	地域4	B	88	63	25	12	0
生徒指導の充実	教師は、児童生徒一人一人と教育相談などを通して悩みの把握に努め、いじめを絶対に許さない、見逃さない学校づくりに努めている。	A	◇毎月の「なかよしアンケート」や、それを踏まえての教育相談がきちんと実施されていること、教職員がタイムリーな指導や支援を行ったことが高評価につながっている。 ◆今後も引き続き、「なかよしアンケート」及び教育相談を確実に実施し、児童生徒の思いや願いを早期に把握した上で素早い対応に努める。保護者や地域に対しては、ホームページを中心に学校の取組や児童の様子等について、積極的に公開していく。	教職員12	A	100	45	55	0	0
	目標値：教職員、保護者の90%以上が肯定	A	◇小規模校の特性を生かし、児童生徒一人一人の様子について全教職員が把握し、その時に応じた適切な指導や支援を行っていることが、高評価につながっている。 ◆今後も、全教職員による輪番制の教育相談や「なかよしアンケート」を実施し、日々の情報交換も行いながら、児童生徒の思いに寄り添った素早い対応に努める。また、引き続き、保護者や地域への情報発信も行っていく。	児童生徒12	A	100	27	73	0	0
学校運営協議会委員の意見	・篠山小中学校は児童数生徒数が少ないため、一人一人に応じた指導が確立できる。そのメリットを生かして、きめ細かな指導をしてほしい。 ・配慮を要する児童生徒だけでなく、能力の高い児童生徒が更に上を目指せる指導にも積極的に取り組んでほしい。	学校の対応	・小規模校の特性を生かし、児童生徒との日々のコミュニケーションや日記指導、毎月実施している小中合同の教育相談などを利用して、きめ細かな指導や対応を行う。また、児童生徒の長所を更に向上させるための支援も積極的に取り込んでいく。 ・進学等により、環境が小集団から大きな集団へ変化した場合でも対応できるよう、学校行事で活躍できる場を経験させ、どんなことにも自信を持って取り組める児童生徒を育成する。	教職員13	A	100	64	36	0	0
	・登校できにくい生徒については、保護者と常に連絡を取り合い、より良い方策を考えてほしい。 ・本校は個別指導を充実させられることが強みである。学習面においても配慮を要する児童生徒だけでなく、高度な学習ができる児童生徒も伸ばしてほしい。			・小規模校の良さである個に応じた指導や、きめ細かな指導を引き続き行う。また、日常的にコミュニケーションを取ったり、小中合同で行う教育相談を充実させたりするなど、全教職員で全児童生徒を見守るよう体制を整える。 ・児童生徒に関する些細なことも教職員間で情報を共有し、連携して対応に当たる。また、保護者への連絡を確実にし、連携を強化していく。	保護者11	A	94	27	67	6
				地域5	A	100	25	75	0	0
				教職員13	A	91	46	45	9	0
				保護者11	A	100	13	87	0	0
				地域5	A	100	30	70	0	0

5 安全・安心な教育環境の整備、教職員の資質・能力の向上

安心・安全な教育環境の整備と充実	学校は、災害等に対する安全教育の推進を行い、「自分の命は自分で守り切る」ことのできる児童生徒の育成に努めている。	A	◇定期的な安全点検や、日常的な点検などにより、安全な教育環境が整えられている。また、校舎や施設面で問題が起きたときに、速やかな対応ができています。6月の防災参観日は保護者や地域住民と協力して、避難所運営ゲームや避難所運営を行うことができました。体育館に設置している避難グッズを実際に使用できたことも、高評価につながっている。 ◆2学期も地震等の避難訓練を計画しているが、確実に実施していく。交通安全や不審者対応などについては、メディアから得た情報を指導に生かすなど、機会を捉えて「自分を守り切る」ことのできる児童生徒を育成していく。	教職員14	A	100	64	36	0	0
	目標値：教職員、児童生徒、保護者の90%以上が肯定	A	◇避難訓練については、本校の年間計画や県の取組に沿って予定通りに実施できている。また、安全点検についても全教職員で定期的に行っており、教育環境の整備が十分できている。12月に学校保健委員会で、「SOSの出し方・受け止め方教室」を行い、自他の命を守ることも学んだ。 ◆年間計画通りに避難訓練や安全点検を実施し、校内の安全体制や環境を整えていく。また、道徳科や学級活動などを中心に「自分の命」を大切に学習を展開していく。	教職員14	A	100	64	36	0	0
教職員としての資質と指導力の向上	信頼される教師を目指し学力向上、生徒指導等についての研修や自己研鑽に努めている。	A	◇中国・四国へき地教育研究大会に対して、小中が連携しながら研修に取り組んでいる。また、生徒指導面においては、研修や教育相談を充実させ、未然予防に積極的に取り組んでいることが高評価につながっている。 ◆学習面においてやや課題が残ることが分かったので、学力向上を核とし個別指導を行う。また、校内研修を充実させて教職員の指導力をさらに磨き、11月の中国・四国へき地教育研究大会では、児童生徒の生き生きとした姿を披露できるようにしたい。	教職員15	A	100	55	45	0	0
	目標値：教職員の90%以上が肯定	A	◇中国・四国へき地教育研究大会に向けて教職員が一丸となり、3年間の集大成として成果を発表することができた。また、来校者からは「研究が深まっている」、「児童生徒が育っている」等の言葉が聞かれたことは、教職員一人一人が自己研鑽に努めてきたことが言える。生徒指導面では、登校しにくい児童生徒にどう対処すべきかという課題も残った。 ◆学力向上面や授業における指導については、研究大会後も継続して研修を行う。また、生徒指導面については、保護者との連携の在り方を再度確認するとともに、より良い指導方法について研修を深めていく。	教職員15	A	100	46	54	0	0
学校運営協議会委員の意見	<ul style="list-style-type: none"> 山北地区の山の側はがけ崩れのおそれがある。市へ働きかけているが、なかなか難しい。生徒が自転車で通行している姿を見かけたことがあるので、指導してほしい。 中国・四国地区へき地教育研究会は、ぜひ頑張って篠山小中学校の良さをアピールしてほしい。 避難訓練の様子を見たが、全児童生徒が避難行動を取ることができている。しかし、消火訓練では即座に動ける児童生徒は少なかった。 アンケートの項目が多すぎる。結果をまとめることを考えると、もっと減らしても良いのではないかな。 	学校の対応	<ul style="list-style-type: none"> 校内における安全教育は定期的に推進できているが、今後は校外にも目を向け、地域からの情報を積極的に吸い上げ、児童生徒の指導に生かす。 教職員の指導の在り方については、全教職員で共通理解の下、行き過ぎた指導や不平等な指導とならないよう個に応じた指導等を心掛ける。 中国・四国地区へき地教育研究会は、本校のこれまでの取組をアピールできる絶好の機会であると捉えている。小中で連携してきた取組や保護者や地域住民と築き上げた取組の成果を最大限に発信したい。 避難訓練は年間指導計画通りに実施できたが、見直しが必要な点もあった。危険等発生時対処要領(危機管理マニュアル)も含めて再度見直しを図り、学校安全や安全教育の推進を図る。 今後の学校評価については評価項目を精選するなどの見直しを図る。より良い学校評価の在り方について再度教職員で検討し、来年度へつなげたい。 							